

15 カ国、OAS 総会でベネズエラの主権を擁護

6月5日ワシントンで開催された第48回米州機構(OAS)通常総会で、ベネズエラのマドゥーロ政権を厳しく非難し、OAS加盟国資格をはく奪する措置を適用とする決議が、賛成19カ国、反対4カ国、棄権11カ国で採択されました。決議案は、18カ国の賛成で採択されますが、ベネズエラの資格をはく奪は、加盟国の3分の2以上、24カ国以上の賛成が必要で、米国のこの当初の目的は達成されませんでした。

ベネズエラ批判決議を採択

この決議案は、米国主導のもとに、カナダ、アルゼンチン、ブラジル、チリ、メキシコ、ペルーの7カ国が共同提案したものです。

賛成は、この他に、コロンビア、コスタリカ、ガイアナ、グアテマラ、ホンジュラス、パナマ、パラグアイ、セントルシア、ドミニカ共和国、バハマ、ジャマイカ、バルバドスです。

反対は、セントビンセント・グレナディーン、ベネズエラ、ボリビア、ドミニカ国です。

棄権は、スリナム、サンキッツネイビス、トリニダード・トバゴ、ベリーズ、ウルグアイ、アンティグア・バーブーダ、エクアドル、エルサルバドル、グラナダ、ハイチ、ニカラグアです。(文末の表をご参照ください)。

何を決議したか

決議文は、10項目からなっていますが、主要なものは、「①ベネズエラにおける5月20日の大統領選挙は、すべてのベネズエラの政治勢力が参加せず、自由、公正、透明、民主的プロセスという必要な保障がなく、国際基準に合致しておらず、適法性に欠けるものであった。

②すべてのベネズエラの政治勢力、利害関係者が参加する選挙がベネズエラ市民の意志を反映するものであり、平和的に現在の危機を解決するものである。

③人道的危機及び公共医療危機の悪化を防ぐために、人道支援を受け入れることを要請する。

④米州民主主義憲章第20条及び21条にしたがい、ベネズエラの資格停止を検討する」と述べています。

上記の①②③④とも、主張は、米国政府とそれに追随するリマ・グループ14カ国がこれまで主張してきたことと全く変わりはありません。しかし、野党の過激派のMUD(民主団結会議)も選挙に参加する意思を示していたのに、米国の強硬な反対で不参加となった経過からすれば、論理が破綻しています(拙稿「ベネズエラの大統領選挙をどうみるか(2)

(3)」参照)。③については、米国による一方的な経済制裁の解除が先ず最初でしょう。いずれにせよ、選挙の正当性などは、その国の国民が決定することであり、国外で決定するのは、ベネズエラの主権に対する侵害で内政干渉です。また、決議文は、今回の選挙の実態からも、選挙を忌避した国内の一部の勢力の言い分を述べているだけで、むしろ、選挙を忌避した勢力に、選挙に参加し、与野党対話に復帰するように呼びかけるのが、建設的な事態の解決方法でしょう。

OSA 総会に対する異常なトランプ政権の意気込み

それにしても、今回の OAS 総会でベネズエラ追放にかけた米国のトランプ政権の意気込みは異常なものでした。5 月に就任した米 OSA 大使のキューバ系米国人のカルロス・トゥルヒージョ氏（過激派のキューバ系米国人マルコ・ルビオの引き立て）は、「キューバ、ベネズエラ、ニカラグアの民主化」に執念を燃やしている人物で、「ベネズエラに民主主義が存在しないうちは、この問題を継続して問題にする、トランプ大統領は、ベネズエラ国民を完全に支持している」と、OAS 総会で述べ、トランプの強硬路線で反対諸国を威嚇しました。

また、総会に出席したポンペオ国務長官は、演説で、キューバ、ニカラグアを批判した後、「ベネズエラの OAS 資格停止がゴールではない。各国がさらに制裁に参加し、外交的に孤立させ、真の民主主義が復活するように必要な行動を取ることができるようにしなければならない」と恫喝しました。しかし、6 月 4 日、米国はベネズエラの資格停止に必要な 24 カ国が確保できず、投票は 5 日に持ちこまれました。

翌日に備えて、同夜米国のペンス副大統領は、22 カ国（ベネズエラ追放には、米加を除けば 24 カ国となるためには 22 カ国必要）を招き、ホワイト・ハウスでレセプションを行いました。レセプションには、リマ・グループの 14 か国の他、**バハマ、バルバドス、ドミニカ共和国**、エクアドル、**ジャマイカ**、ウルグアイ、サンキッツネイビス、トリニダード・トバゴの 8 カ国が招かれました。結果的にはこのうち、バハマ、バルバドス、ドミニカ共和国、ジャマイカは、態度を変え、賛成に回り、招待は功を奏したようですが、エクアドル、ウルグアイ、サンキッツネイビス、トリニダード・トバゴは棄権に回り、根本的な態度を変えず、レセプションのご馳走だけをいただいたようです。

ペンス副大統領は、あいさつで「トランプ大統領は、OAS 加盟国にマドゥーロ政権を打倒するように要請している。その時が来たのである。5 月 20 日のマドゥーロの再選挙は、恥であり、欺瞞であり、それを米国は承認せず、西半球の中では非合法の政府と糾弾している」と、マドゥーロ政権への敵意を露わにしました。さらに「決議案の第 10 項は、米州民主主義憲章の第 20 条、21 条の規定を適用して、民主主義制度を正常化するものである」と武力行使の可能性まで言及しました。というのは、第 20 条は、外交的手段以外の適用を認めるものであり、第 21 条は、3 分の 2 以上の投票で加盟国の資格を停止する条項だからです。

さらにペンス副大統領は、なんとか 24 票を獲得するために、同日エクアドルのモレーノ大統領に電話をし、「ベネズエラは人道的、経済的に悲惨な状況にあり、自由を推進するために両国が協同する」ことをなりふり構わず要請しました。しかし、結果は、エクアドルは、さすがに賛成には回らず、棄権に回りました。

ベネズエラ政府の反論

ベネズエラのアレアサ外相は、「決議案は、内政不干渉などの国際法の諸原則に違反するものである。他国への軍事介入を示唆しているが、こうした行動を承認する権限は、国連安保理のみがもっているものであり、強制的手段は違法である。いずれにせよ、ベネズエラは、

自主的に来年度4月をもって脱退する」と反論しています。また、ボリビアのママニ外相は、「国際法の諸原則に違反する決議に賛成するわけにはいかない。食料、医薬品の取得を制限している一方的な制裁は受け入れられない」と決議案にきっぱりと反対しました。

賛成19カ国に対し、反対4カ国、棄権11カ国ですが、この棄権11カ国は、米国の脅迫、圧力、援助による誘惑に屈せず、一貫してベネズエラへの介入に不承認の態度を貫いている国です。キューバも加えれば、35カ国中、16カ国がベネズエラの主権を擁護する立場にたっています。

OAS とは何か

現 OAS 事務総長のかつての上司であった、ウルグアイのムヒカ前大統領は、「アルマグロが OAS で行っていることはベネズエラだけでなくラテンアメリカ全体にとって大変危険である。われわれは民主主義、人権の擁護、大量破壊兵器反対をいうのを良く耳にするが、その後決まって米国の干渉が続くのを見てきている。アルマグロの行為は、干渉主義に火をつけるものだ」と警告しています (La Red 2117.04.30)。

2009年、キューバの OAS への復帰をめぐる、当時のインスルサ事務総長と論争したフィデル・カストロ議長は、「OAS は、加盟国の米国政府を批判したことがあるか？一度もないではないか。ブッシュ政権のジェノサイドを一度も批判したことはない。OAS は、ラテンアメリカの国民を裏切った60年のごみのような歴史をもっており、キューバは、腐った OAS に復帰する意思はない」と喝破したことがあります。その後、キューバを追放したことが誤りとされ、2009年6月キューバの資格停止は無効とされましたが、キューバは復帰していません。OAS の性格は、10年後も変わっていないようです。

ベネズエラ、言論を通じて立場の違いの解決を模索

今回の大統領選挙は、与党の勝利に終わりましたが、マドゥーロ大統領とベルトウッシ前候補、キハーダ前候補と、対話と和平会談が進められています。

選挙後の5月23日、選挙に参加した野党キリスト教民主党幹部の、ペドロ・パブロ・フェルナンデス氏は、「現在のベネズエラの悲惨な状況は、政府だけの責任ではなく、野党のわれわれも、人々の困難よりもわれわれの党利・党略的関心を上に置いて行動してきたことにあり、われわれも自己批判が必要であると」述べています。また、ファルコン前候補者は、「不正選挙に抗議するが、しかし選挙に参加したのは正しかった。今後とも選挙があれば参加する」と選挙を通じた戦いを主張しています。

5月23日、ベルトウッシ前候補は、政治犯の釈放、医療・食糧支援の受諾、選挙違反の究明をマドゥーロ大統領に提案し、大統領は、これらの提案を受けると発表しました。また、29日には、パブロ・フェルナンデス、キリスト教民主党幹部もマドゥーロ大統領と会談し、政治犯の釈放を要求、大統領もこれを受け入れました。政府は、6月1日、39人、6月2日

40名を釈放し、約束を実行しました。これは、一部の報道で言われているような、海外からの圧力に屈したからでなく、国内の平和を求める対話の中で、与野党が合意したものです。大統領選挙と同時に行われた県議会選挙では8人の野党議員が選出されており、これらの野党議員は制憲議会で宣誓式に出席しています。言論を通じての意見の違いの解決の道が模索されています。ベネズエラの困難な問題は、あくまでベネズエラ国民が対話により解決する問題です。

○は賛成あるいは加盟、×は反対、棄は棄権、欠は欠席を表します。

	国名	17年ベネ問題協議賛成	17年ベネ資格停止案	18年ベネ資格停止案	カリコム加盟国	アルバ加盟国	ペトロカリブ加盟
1	アンティグア・バーブーダ	棄	×	△	○	○	○
2	アルゼンチン	○	○	◎			
3	バハマ	○	△	○	○		○
4	バルバドス	○	△	○	○		
5	ベリーズ	○	△	△	○		○
6	ボリビア	棄	×	×		○	
7	ブラジル	○	○	◎			
8	チリ	○	○	◎			
9	コロンビア	○	○	○			
10	コスタリカ	棄	○	○			
11	ドミニカ国	棄	×	×	○	○	○
12	ドミニカ共和国	棄	△	○			○
13	エクアドル	棄	×	△		○	
14	エルサルバドル	棄	×	△			○
15	グレナダ	欠	×	△	○	○	○
16	グアテマラ	○	○	○			○
17	ガイアナ	○	△	○	○		○
18	ハイチ	棄	×	△	○		○
19	ホンジュラス	○	○	○			○
20	ジャマイカ	○	×	○	○		○
21	メキシコ	○	◎	◎			
22	ニカラグア	×	×	△		○	○
23	パナマ	○	◎	○			
24	パラグアイ	○	○	○			
25	ペルー	○	◎	◎			

26	セントクリストファー・ネイビス	棄	×	△	○	○	○
27	セントルシア	棄	×	○	○	○	○
28	セントビンセント・グレナディーン	棄	×	×	○	○	○
29	スリナム	棄	×	△	○		○
30	トリニダード・トバゴ	棄	×	△	○		
31	ウルグアイ	○	○	△			
32	ベネズエラ	欠	×	×		○	○
33	アメリカ合衆国	○	◎	◎			
34	カナダ	○	◎	◎			
	キューバ*		×	×		○	○
		18	13~18	19x15	14	11	19

出所：各種資料により筆者作成。*キューバ、資格有するも参加せず。

拙稿「ベネズエラ『危機』と外国からの干渉—ベネズエラの主権をめぐる OAS での攻防—」
(2017年6月2日) 参照。

(2018年6月6日 新藤通弘)